

幼児の着脱行動からみた衣服のあきに関する提言

布施谷節子

A Proposal about the Types of Fastener for Infants from a Standpoint of putting on or taking off Clothes

Setsuko Fuseya

本論文は、子どもの着脱の自立を妨げず、むしろ助長するような衣服の構造を研究する立場から、着脱に関する生活習慣の達成の時期や、衣服のあきの位置とそこに付けられる留め具の種類による着脱の達成の時期を明らかにし、着脱しやすい幼児服の条件を提案することを目的とした。1988年10月に着脱に関するアンケート調査を行った。調査対象者は、3歳から6歳の幼児園児・保育園児の合計743名の母親である。幼稚園・保育園別、男女別、年齢別に検討した。主な結果は以下の通りである。

- (1) 着脱の生活習慣の自立や、留め具の開閉動作の達成の時期については、全般的に保育園児の方が早い。また、男女差では女兒の方が早い。
- (2) 幼児服にとって、あきの位置は重要な要素である。男女児ともに達成時期の早い順は、前（第1ボタンを除く）→前（全部）→肩→袖口→背である。しかし、肩あき、背あき、袖口あきでは6歳でも達成していない。従って、幼児服のあきは前につけることが重要である。
- (3) 留め具については、ボタンが適当であり、オープンファスナーやカギホックは年少児には不適當である。
- (4) あきの位置と留め具の観点から、年齢別に着脱しやすい衣服の条件を提示した。

キーワード：ボタン、ファスナー、幼稚園、保育園、達成

緒 言

衣服の着脱機能が達成される年齢については、発達心理学の立場から、生活習慣の一部としての扱いで検討が行われ、ゲゼル¹⁾をはじめとして、山下²⁾、津守³⁾、平井⁴⁾、浅見⁵⁾、岡田⁶⁾、松原⁷⁾らが大まかな指標を示している。しかし、着脱機能の発達に見合った衣服を設計しようとする立場からの報告は、僅かである^{8),9)}。着脱に関わる衣服側の条件として、Tシャツ、

ズボン、スカートといった服種、前や脇などのあきの位置、ボタンやファスナーなどの留め具の種類、衣服の素材やゆるみなどが考えられる。しかし、これまでに、これらの条件と、着脱の自立の時期との関係が解明されたとは言い難い。そこで、著者は、着脱に関する生活習慣の達成の時期や、衣服のあきの位置と、そこに付けられる留め具の種類による着脱の達成の時期を明らかにすることによって、子どもの自立を妨げず、むしろ助長するような衣服の構造を提言することを目的とした。

資料ならびに方法

資料は、東京近郊、新潟と鹿児島市内の4つの幼稚園と、4つの保育園の、3歳から6歳児の母親743名（有効資料）を対象とした、着脱に関するアンケート調査資料である。調査対象者の属性については、乳幼児の衣生活についての論文で用いた資料と同じ対象であり、既に報告済みである¹⁰⁾。どの園も市街地にあり、いわゆるサラリーマン世帯が大部分を占めている。本論文の着脱に関するアンケート調査では、3つの地域差は見られなかったために、一括して扱った。ただし、園で過ごす時間の差や昼寝の有無の違いから、幼稚園と保育園は区別して扱った。年齢別の資料数は表1に示すようである。調査の実施時期は1988年10月である。アンケート調査項目については、着脱の習慣に関する質問項目を表2に、あきの位置と留め具に関する質問項目を表3に示す。母親が我が子の日常の着脱行動を観察する中で、各質問項目について、できないを1、どちらともいえないを2、できるを3として評価した。各項目の年齢毎の評価の平均点が2.5以上の場合を、達成の基準として考察を進めることとした。これは、項目により多少の違いは見られるものの、「できる」とした子どもの比率が、70～75%に達した場合に該当する。解析は、1、2、3の評価数字をもとにした単純集計と因子分析によった。

表1 資料数

		3歳	4歳	5歳	6歳	小計	合計
幼稚園	男	21	91	115	63	290	569人
	女	20	90	106	63	279	
保育園	男	25	24	26	18	93	174人
	女	20	27	22	12	81	

表2 着脱の習慣に関する質問項目

1. 靴を脱ぐ	9. パンツを立てはく
2. 靴をはく	10. 長ズボンを立てはく
3. 靴下を脱ぐ	11. 着順をまちがえない
4. 靴下をはく	12. 大体は一人で着脱できる
5. Tシャツを脱ぐ	13. 脱いだものを片づける
6. Tシャツを着る	14. ウエストが総ゴムの衣服の所有率
7. パンツを脱ぐ	15. 丸首衣服の所有率
8. パンツの前後をまちがえない	

評価基準：1 できない 2 どちらともいえない 3 できる（項目No.1～13）

表3 あきの位置と留め具に関する質問項目

1. 上衣前ボタンをはずす	11. 背のファスナーを閉める
2. 上衣前ボタンをかける（第1ボタンを除く）	12. 上衣前オープンファスナーを開ける
3. 上衣前ボタンをかける（全部）	13. 上衣前オープンファスナーを閉める
4. 肩のボタンをはずす	14. 下衣前・脇のファスナーを開ける
5. 肩のボタンをかける	15. 下衣前・脇のファスナーを閉める
6. 袖口のボタンをはずす	16. 下衣前・脇のカギホックをはずす
7. 袖口のボタンをかける	17. 下衣前・脇のカギホックをかける
8. 背のボタンをはずす	18. 紐を堅結びする
9. 背のボタンをかける	19. 紐の堅結びを解く
10. 背のファスナーを開ける	20. ちょう結びをする

評価基準：1 できない 2 どちらともいえない 3 できる

結果ならびに考察

1 着脱に関する生活習慣の達成

着脱の習慣に関する9項目について、男女と年齢を一括した上で、幼稚園児と保育園児の評価の平均値を見ると、「靴下をはく」、「パンツの前後をまちがえない」では、幼稚園児が有意に高い値を示して、達成率が高く、「脱いだものの片づけ」では、保育園児の方が有意に高いことがわかった。したがって、幼稚園と保育園では、着脱に関する習慣に差があることが示唆され、以後の検討は幼稚園・保育園別に行った。

表4は、保育園・幼稚園別、年齢別、男女別に2.5未満を△で、2.5以上の達成を○で示すと同時に、男女の有意差を*で示した。保育園児では、男女ともに3歳児で既に達成している項目は、「着順をまちがえない」、「大体は自分で着脱する」、「Tシャツを着る」の3項目である。5歳児では男児の「脱いだものの片づけ」が未達成であるものの、6歳児では男女

表4 着脱に関する習慣の達成状況(幼稚園・保育園別、男女児別)

幼 稚 園								
	3 歳		4 歳		5 歳		6 歳	
	男	女	男	女	男	女	男	女
1. 靴をはく	△	△	○	○	○	○	○	○
2. 靴下をはく	△	* ○	○	○	○	○	○	○
3. Tシャツを着る	△	○	○	○	○	○	○	○
4. パンツの前後を間違えない	○	○	○	○	○	○	○	○
5. パンツを立ててはく	△	△	△	○	○**○	○	○*	○
6. 長ズボンを立ててはく	△	△	△	△	△**○	○	○	○
7. 着順をまちがえない	△**○	○	○*	○	○	○	○	○
8. 大体は一人で着脱する	△	△	○	○	○	○	○	○
9. 脱いだものを片づける	△	△	△*	△	△**○	○	△	○

保 育 園								
	3 歳		4 歳		5 歳		6 歳	
	男	女	男	女	男	女	男	女
1. 靴をはく	△	△	○	○	○	○	○	○
2. 靴下をはく	△	△	△	○	○*	○	○	○
3. Tシャツを着る	○	○	○	○	○	○	○	○
4. パンツの前後を間違えない	○	△	○	○	○	○	○	○
5. パンツを立ててはく	△	△	○	○	○	○	○	○
6. 長ズボンを立ててはく	△	△	△	△	○	○	○	○
7. 着順をまちがえない	○	○	○	○	○	○	○	○
8. 大体は一人で着脱する	○	○	○	○	○	○	○	○
9. 脱いだものを片づける	△	△	△	○	△	○	○	○

△は評価の平均が2.5未満、○は2.5以上

*は5%水準、**は1%水準で男女差あり

とも全て達成している。男女の有意差については、「靴下をはく」の5歳児で、女兒の達成率が高く有意となるものの、他の項目では、どの年齢でも男女差は見られない。

幼稚園児では、男女ともに、3歳児で既に達成している項目は、「パンツの前後をまちがえない」のみであり、男児では、6歳でも「脱いだものの片づけ」が未達成である。男女の有意差は、5項目の多くの年齢で見られ、男児の達成が遅いことを示し、保育園児に比べて、男女差が見られる項目が多いことが目立つ。これについては、多くの保育園では、園児の衣服について、男女児ともに、自分で着脱しやすい丸首のシャツやゴム入りのショートパンツを着用することを、保護者に要望している。このために、保育園児は幼稚園児に比べて、男女差のない着装形態であることが、達成時期に男女差が出現しにくい要因の一つと考えられ

る。

全般的に、保育園児の方が幼稚園児より多くの項目の達成率が高いことについて、次のように考えられる。すなわち、保育園では、幼稚園と比べて、日中の大部分を園で生活することや、昼寝があるためにパジャマに着替えること、園として、生活習慣の自立を重要視した指導を行っているためと考えられる。また、在園期間の長短の影響も考えられる。保育園児は、3歳以前からの入園児が多いのに対し、幼稚園児は、早くとも年少組の3歳からであるため、3歳以前に、両者には既に差が生じているとも考えられる。一方、保育園児の方が幼稚園児より達成率が低い項目に、「靴下をはく」がある。これは、保育園では裸足保育を行っているところが多く、靴下をはく機会が少ないためと考えられる。

パンツや長ズボンを立てはくことについては、達成には5、6歳まで待たなければならぬことがわかる。保育園での実地観察調査で、年少の園児は、排泄の度に、パンツやズボンをトイレの入り口で脱いでしまい、後に、床に座り込んでおく様子が多く見られた。これはからだのバランス保持の問題であり、排泄行動が、スムーズにできるかどうかにつながる問題である。

女兒の方が、全般的に達成時期が早いという男女差については、松原らは、睡眠・排泄・着脱など9領域を一括して、生活能力の性差として検討した結果、各年齢とも、男児より女児の方が生活能力が高いことを示している⁷⁾。著者も、女兒の方が衣服に対するこだわりが強いことを明らかにしている¹¹⁾。

以上のように、基本的な着脱習慣の自立の時期の遅速には、年齢はもちろんのこと、男女差、保育の形態、日頃の衣生活習慣に関わる保育者の指導が、影響することが示されたと考える。

2 あきの位置と留め具の違いによる自立の達成

表5は男女一括で、幼稚園児について、性別、年齢、親の着脱補助の3項目を加えた23項目による因子分析結果である。固有値1以上の因子は3個抽出され、累積寄与率は38.8%である。第1因子は下衣のファスナーの開閉、第2因子は背部の留め具の開閉、第3因子は、袖口ボタンのかけはずしを表す因子と解釈できる。保育園児の場合では、幼稚園児と同じ因子の他に、第1因子として下衣のホックのかけはずしが、第3因子には袖口とともに肩のボタンのかけはずしが、第4因子として上衣前あきボタンかけを表す因子が抽出された。保育園児では第4因子までの累積寄与率は48.3%である。保育園児の方が、あきの位置がより分散されて因子が抽出された。いずれにしても、幼児の着脱にとって、あきの位置が重要な意味をもつことが、この結果から読みとれる。

表5 あきの位置と留め具に関する因子分析(バリマックス回転後)

幼稚園男女一括 N=567

	第1因子	第2因子	第3因子
性別	0.046	-0.184	-0.064
年齢	0.106	0.202	-0.242
着脱補助	0.013	0.134	-0.142
1. 上衣前ボタンをはずす	0.365	0.073	-0.062
2. 上衣前ボタンをかける(第1ボタン以外)	0.355	0.113	-0.090
3. 上衣前ボタンをかける(全部)	0.213	0.101	-0.260
4. 肩のボタンをはずす	0.086	0.135	-0.165
5. 肩のボタンをかける	0.069	0.264	-0.270
6. 袖口のボタンをはずす	0.177	0.099	-0.714
7. 袖口のボタンをかける	0.045	0.198	-0.713
8. 背のボタンをはずす	0.078	0.743	-0.130
9. 背のボタンをかける	0.041	0.815	-0.012
10. 背のファスナーを開ける	0.060	0.692	-0.191
11. 背のファスナーを閉める	0.042	0.809	-0.059
12. 上衣前オープンファスナーを開ける	0.232	0.022	-0.030
13. 上衣前オープンファスナーを閉める	0.124	0.153	-0.167
14. 下衣前・脇のファスナーを開ける	0.817	0.063	-0.035
15. 下衣前・脇のファスナーを閉める	0.822	0.065	-0.119
16. 下衣前・脇のカギホックをはずす	0.264	0.039	-0.068
17. 下衣前・脇のカギホックをかける	0.209	0.083	-0.117
18. 紐を堅結びする	0.092	0.063	-0.179
19. 紐の堅結びを解く	0.073	0.132	-0.225
20. ちょう結びをする	0.035	0.139	-0.188
固有値	5.43	2.13	1.36
累積寄与率	23.6	32.8	38.8%

 因子負荷量 ± 0.5 以上

因子分析の結果を受けて、次に、各項目の年齢毎の達成状況を見ることにする。図1は幼稚園男児の場合を、図2は女児を示している。項目毎に男女差が有意となった年齢については、男児の図中に*で示す。これらの図から、男女ともに3歳児ですでに2.5を越えてほぼ達成と判断できる項目は、「下衣ファスナーを開ける」、「下衣ファスナーを閉める」、「上衣前ボタンをはずす」、「上衣前オープンファスナーを開ける」の4項目であることがわかる。

1) 男女差について

男女差は3歳児と6歳児では少なく、4歳、5歳児で多く見られる。女児の方が達成が早い項目がほとんどである中で、背あきボタンやファスナーの開け、閉めは男児の方が優位である。これについては、一般に男児服に背あきのものほとんど見られないために、男児の

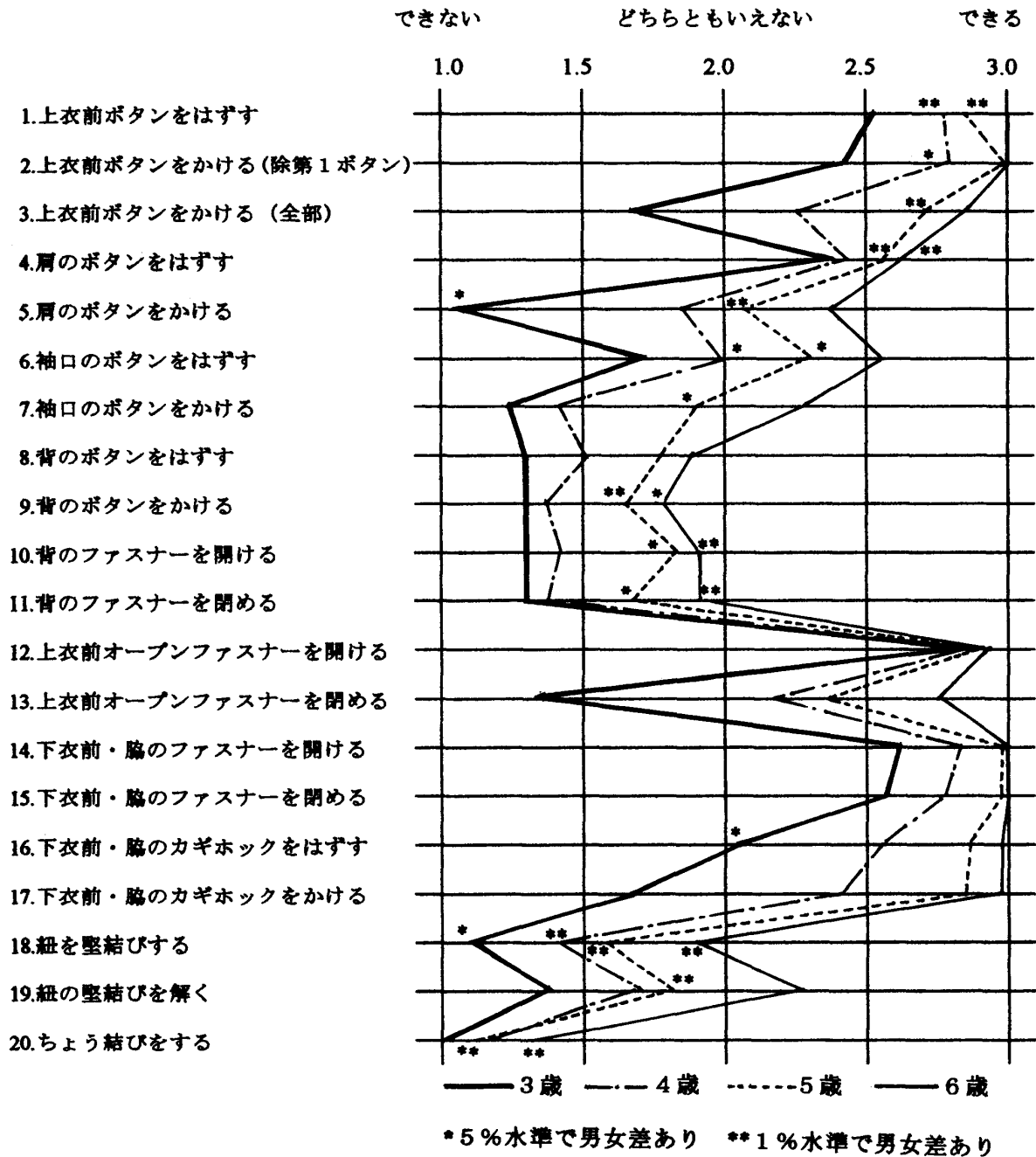


図1 あきの位置と留め具に関する達成評価平均値（幼稚園男児）

親は未経験から「どちらともいえない」と判断した人が多かったのに対し、女兒の親は、実際に、後ろあきのブラウスやワンピースを、着用させている経験から判断をしたために、評価値が低くなったものと考えられる。4、5歳児で男女差が多く見られることについては、女兒は男児よりも、早くから衣服に対する興味があり、こだわりをもつことを前述した。図3は、頭からかぶって着る丸首衣服の所有率を示している。3、4、5歳で、カイ二乗検定が有意

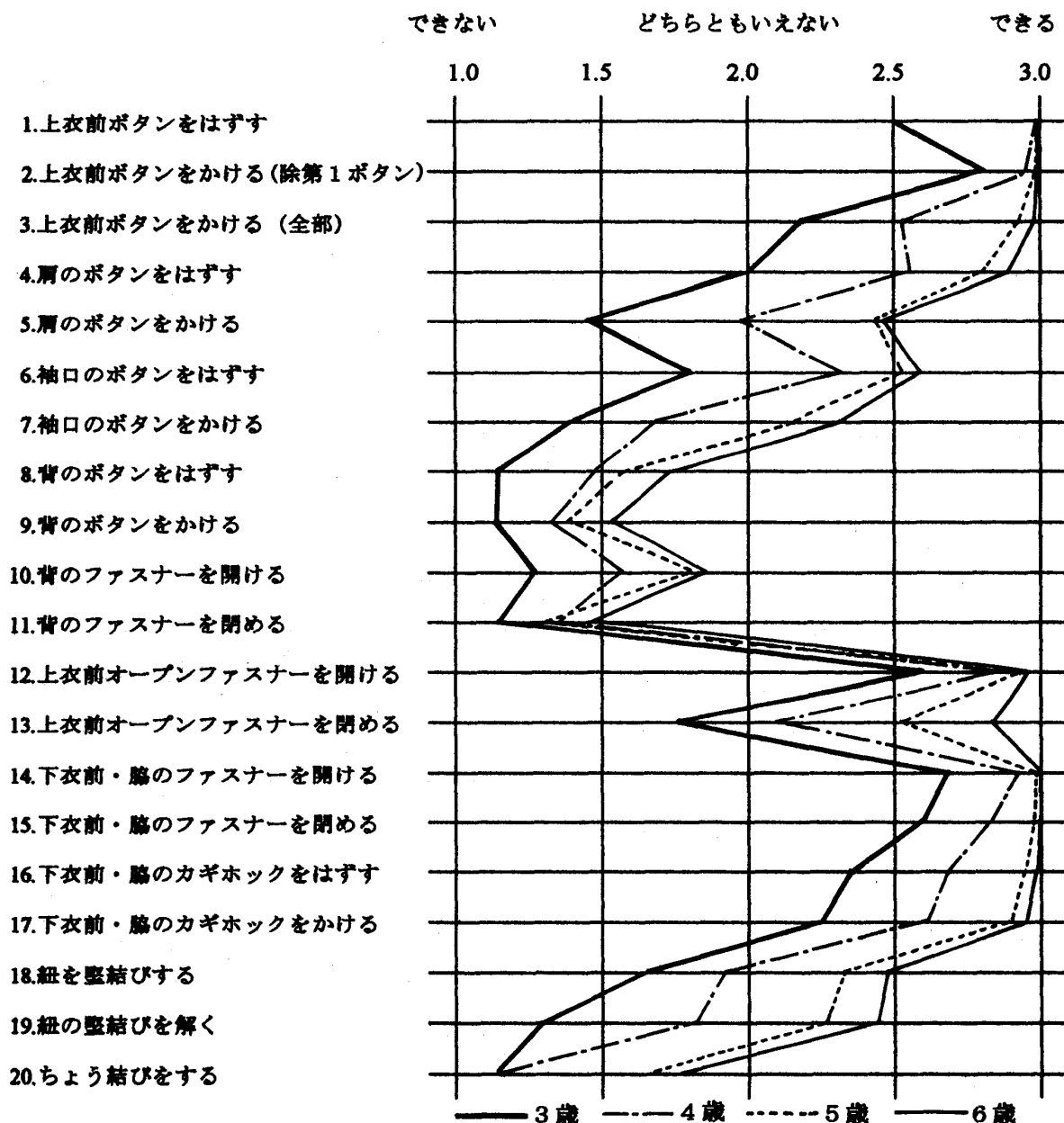


図2 あきの位置と留め具に関する達成評価平均値 (幼稚園女兒)

となり、独立性が認められ、男女に差があることが明らかになった。すなわち、女兒が着用する衣服は、丸首の衣服だけでなく、着用する衣服の種類が増えたり、デザインが多様化するために、女兒服のあきの位置が多様化し、同時に留め具も多様化することが、留め具の開閉で、女子が優位であるもう一つの理由として考えられる。

2) 着脱動作について

かけはずし、開閉という動作から見ると、いずれの項目もはずし、開けるという「脱ぐ」方が達成が早いと言える。従って、子どもの着脱の自立を促すという観点からは、まず、

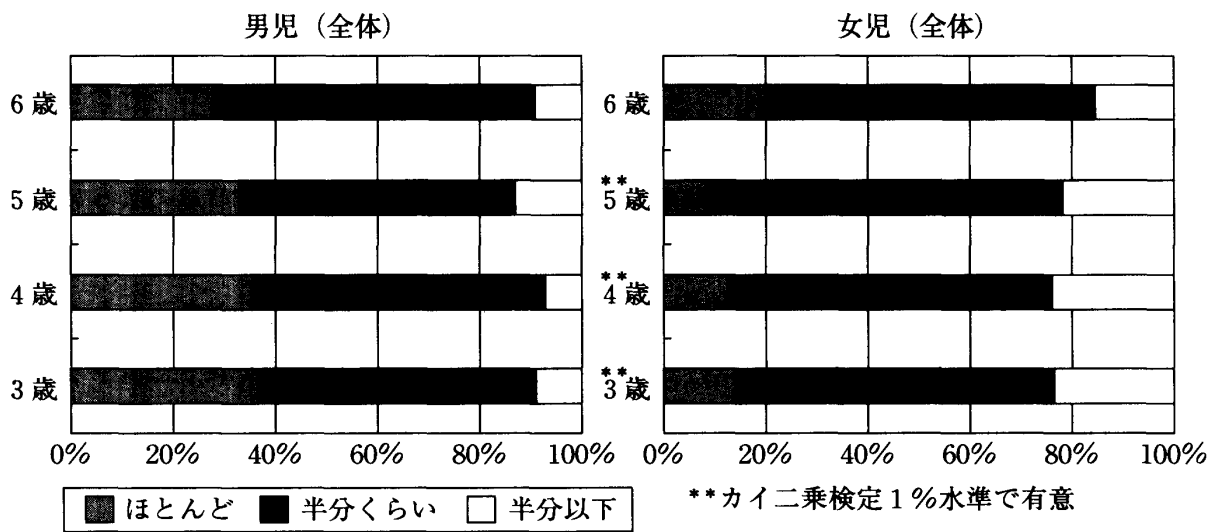


図3 丸首衣服の所有率（男女比較）

「脱ぐ」ことから自立を勧めるのが良いだろう。「着る」ことについては、あきの位置や留め具によって発達段階に差が見られることから、親または保護者は、子どもの状態をよく観察した上で、衣服によって補助の仕方を工夫しなければならないだろう。

3) あきの位置について

因子分析により、あきの位置が3つないし4つの因子として抽出され、あきの位置の重要性が明らかにされた。そこで、あきの位置による達成の年齢的な遅速について、留め具をボタンに限定して、見てみることにする。「はずし」よりも、「かけ」の方が子どもにとっては難しいことから、「かけ」の達成について見ることにする。また、男女児の差があること、幼稚園・保育園によって差が見られる項目があることを考慮しながら、幼稚園児を中心に、およその達成年齢を見てゆくことにする。上衣前ボタンでは、最上部の第1ボタンまでをかけるかどうかによって異なり、第1ボタンを除いた場合では、男児で4歳、女児で3歳である。全部のボタンをかけるのは、男児で5歳、女児で4歳である。肩あき、背あき、袖口あきでは、男女児ともに、6歳でも達成していない。従って、あきの位置については、男女児ともに達成時期の早い順は、前（第1ボタンを除く）→前（全部）→肩→袖口→背である。

以上より、脱ぐだけでなく、着ることができて着脱の自立と考えるならば、幼児服の身頃のあきは、前に設計することが重要である。猪又⁸⁾、岡田⁹⁾は、幼児の上衣ボタンの位置の検討から、目と手の協応が重要であり、ボタンを目でしっかりと見える位置につけること、ボタンは幼児が扱いやすい大きさであることが重要だと述べている。今回のアンケート調査からも、目で確認しにくいシャツの第1ボタンかけは、難しいことが確認された。

4) 留め具について

ファスナーについては、上衣の前オープンファスナーを開けることは、3歳で男女とも達成済みであるが、閉めることは男児で6歳、女児で5歳にならないと達成されない。オープンファスナーは、下端の金具を揃えてはめるといことが難しいことと、前述のように、目と手が協応しにくい低い位置での動作のためとも考えられる。スカートやズボンの下衣の前または脇の位置にあるファスナーの開閉は、3歳で男女児ともに達成済みである。しかし、同じ位置のカギホックのかけはずしは、3歳では難しく、男女児ともに4歳で達成する。この位置の留め具は、カギホックまたはボタンであり、あきにはファスナーを用いるのが一般的である。従って、留め具のついたスカートやズボンを着脱するために、大人が手を貸して、着脱に慣れさせるのは、3歳以前でも可能であるが、一人で自立した着脱を求めるのは、4歳以降が適当であろう。

5) 幼稚園児と保育園児の違いについて

表6は、男女一括、全年齢一括ではあるが、幼稚園と保育園の評価の平均値の差を見ると、全般的には保育園児の方が評価値が高く、達成が早いといえる。保育園では、園に滞在する時間が長かったり、昼寝のためにパジャマへの着替えがあるために、園児が自ら着脱する機会が多いことや、保育者が着脱の自立指導に熱心であるためと考えられる。しかし、下衣のファスナーやカギホックの扱いで、幼稚園児の方が達成率が高い。これについては、保育園では、保護者に対して、着脱しやすいウエストが総ゴム入りのショートパンツを、男女児ともに、着用させるように求めていることが多い。そのために、ファスナーやカギホックなどの留め具がついたズボンを着用している保育園児は少ない。図4は、男児について、幼稚園・保育園別の、ウエストが総ゴム入りの衣服の保有率を示している。3、4歳児の、保育園児の保有率が高く、殊に4歳児でカイ二乗検定が有意であった。従って、保育園児では、留め具のついたズボンを着用し慣れていないことが、達成率の低さになって現れたものと考ええる。

紐の結び解きについては、紐が、日常の幼児服の着脱のためにつけられることは、ほとんどないが、手指の巧緻性を見るという観点から、調査項目に加えたものである。堅結び、ちょう結びともに、幼稚園児では6歳でも未達成であるが、保育園児は、6歳で堅結びは「結び・解き」とともに達成し、保育園児の方が達成が早い傾向が読みとれる。自分で着脱したり、留め具をかけはずしすることが、保育園児の方が多く、日常の繰り返し訓練により、自然に手指の巧緻性が増すものと考えられる。

表6 あきの位置と留め具の評価値の平均値と標準偏差（幼稚園・保育園の比較）

	幼稚園		検定	保育園	
	平均値	標準偏差		平均値	標準偏差
1. 上衣前ボタンをはずす	2.89	0.43	*	2.97	0.23
2. 上衣前ボタンをかける（第1ボタン以外）	2.92	0.38		2.93	0.37
3. 上衣前ボタンをかける（全部）	2.64	0.76		2.76	0.63
4. 肩のボタンをはずす	2.60	0.70		2.68	0.66
5. 肩のボタンをかける	2.10	0.88		2.25	0.90
6. 袖口のボタンをはずす	2.32	0.88		2.22	0.89
7. 袖口のボタンをかける	1.89	0.92		1.96	0.90
8. 背のボタンをはずす	1.61	0.73		1.68	0.77
9. 背のボタンをかける	1.48	0.64		1.57	0.71
10. 背のファスナーを開ける	1.69	0.77		1.77	0.81
11. 背のファスナーを閉める	1.48	0.64		1.56	0.72
12. 上衣前オープンファスナーを開ける	2.88	0.44	*	2.79	0.56
13. 上衣前オープンファスナーを閉める	2.36	0.89		2.22	0.89
14. 下衣前・脇のファスナーを開ける	2.93	0.33	*	2.85	0.45
15. 下衣前・脇のファスナーを閉める	2.90	0.39	*	2.83	0.47
16. 下衣前・脇のカギホックをはずす	2.78	0.55	*	2.68	0.64
17. 下衣前・脇のカギホックをかける	2.71	0.64	*	2.59	0.70
18. 紐を堅結びする	1.87	0.95	**	2.12	0.94
19. 紐の堅結びを解く	1.97	0.95	**	2.27	0.92
20. ちょう結びをする	1.32	0.69		1.42	0.72

評価基準：1 できない 2 どちらともいえない 3 できる

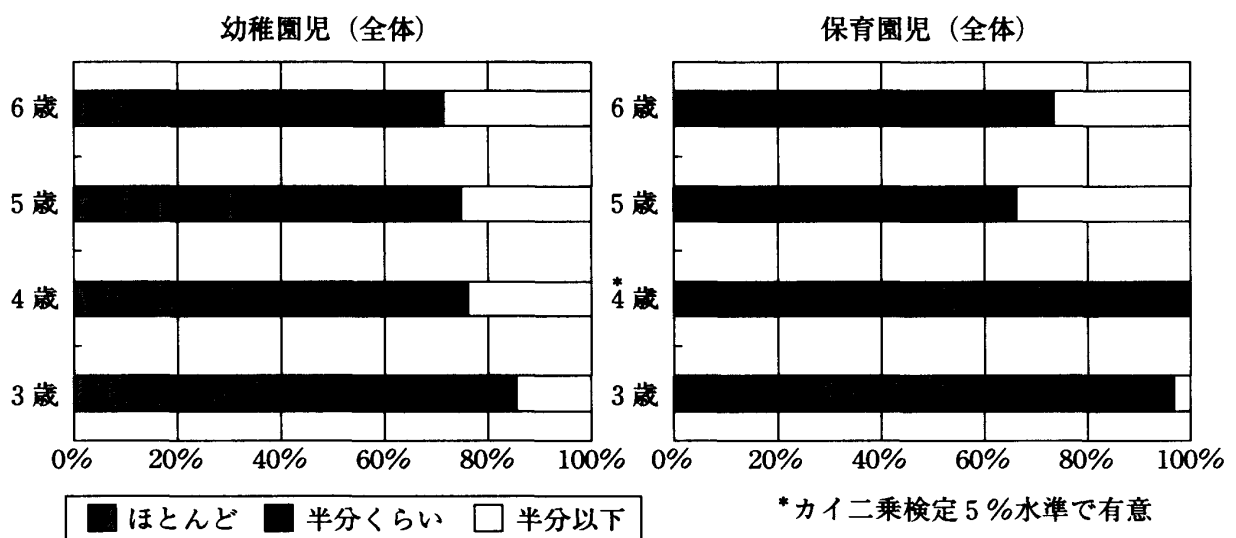


図4 男児のウエスト総ゴム衣服の所有率（幼稚園児・保育園児比較）

まとめならびに着脱しやすい衣服の条件

着脱が自立する以前には、大人の手助けが必要なことはもちろんであるが、自立の先取りをして、子どもに出来ないことを強いるよりは、子どもの発達段階にあった着脱のしやすい衣服を着用させることが、子どもの自立を促すことに通じるものとする。

これまでの検討に基づき、着脱しやすい衣服の条件について、年齢別にいくつかの提案を試みた。すなわち、

- 3歳児では、着脱と排泄の自立への意欲が高まる時期であり、着脱しやすい丸首のトレーナーやTシャツ、ウエスト総ゴム入りのスカートやパンツが、日常服として適当である。
- 4歳児では、前あきの上衣服は、ボタン留めが適当であり、前の衿ぐりを下げて、最上部のボタンは、目で確認できる位置につける。または、最上部のボタンをはずして着用しても、不自然でないデザインとする。ズボンやスカートは、ウエスト総ゴムではなくて、前や脇にあきがあるものも適当である。
- 5歳児では、前あきの第1ボタンをかける必要のあるシャツやブラウスでもよい。
- 6歳児では、前あきのジャンパーやカーディガンに、オープンファスナーがついていてもよい。
- 幼児服では、肩、袖口、背部のあきを留め具でとめるデザインは、不適当である。

以上の年齢による衣服の条件は、あきの位置と留め具の観点からのものであり、衣服の素材や伸縮性やゆとりについては、検討を行っていない。また、これまで述べてきたように、男女の差が見られる項目があったり、幼稚園・保育園という保育条件の差や、親や保育者の関わり方によって差が生じることは明らかである。また、何よりも、幼児の機能発達には個人差が大きい。さらに、本研究は、実験室での着脱実験結果ではないために、前述の、年齢別の衣服の条件については、着脱しやすい衣服の目安にするのが適当だろう。

今日の幼児服を見ると、大人と同じようなデザインのものがあったり、女兒服では装飾過多であったりする。子どもの発達にあった構造・デザインの衣服を着用させることが、着脱をわずらわしいものと感じさせないで、着脱に興味を持たせ、自立を促すものとする。親や祖父母や他の大人が、子どもの衣服を選択・購入する際に、以上のような点に、注意を払うことはもちろん大切であるが、子ども服メーカーは、奇抜で目を引く、売らんがためのデザインではなく、子どもの発達にあった衣服を、積極的に企画・開発することを望むものである。

文 献

- 1) A. ゲゼル著, 依田新, 岡宏子訳: 乳幼児の発達と指導, 129-333, (1980), 家政教育社
- 2) 山下俊郎: 幼児心理学, 310-348, 朝倉書店, (1971)
- 3) 津守真・磯部景子: 乳幼児精神発達診断法—3歳～7歳まで—, 111-120, (1986), 大日本図書
- 4) 平井信義: 乳幼児の発達—0歳～3歳半まで—, 159-197, (1986), 新曜社
- 5) 浅見千鶴子・稲毛敦子・野田雅子: 乳幼児の発達心理—3歳～6歳—, 31-34, 104, 125-128, 大日本図書, (1986)
- 6) 岡田正章・高杉自子・待井和江他: 望ましい経験や活動シリーズ=7 生活習慣, 154-186, チャイルド社, (1977)
- 7) 松原達哉・和泉禎子・二宮玲子他: 幼児の成長・発達と幼稚園の教育過程に関する基礎的調査—生活力の発達—, 204-227, (1985), 昭和59年度科学研究費補助金研究成果報告書
- 8) Inomata, M., Shimizu, K.: Ability of Young Children to Button and Unbutton Clothes, *J. Human Ergol.*, **20**, 249-255, (1991)
- 9) 岡田宣子: 子供のボタンのかけはずし行動からみたしつけ服の設計, *家政誌*, **47**, 701-710, (1996)
- 10) 布施谷節子: 乳幼児の衣生活の現状(第1報)—衣生活を形成する要因—, *家政誌*, **42**, 543-550, (1991)
- 11) 布施谷節子: 乳幼児の衣生活の現状(第2報)—地域・年齢・出生順位が衣生活に及ぼす影響—, *家政誌*, **42**, 551-558, (1991)

(家政学部生活環境学科助教授)